

2013年度 第1四半期(4-6月)決算の概要

2013年7月29日(月)

コマツ
常務執行役員 経営管理部長
杉木 亮

2013年度第1四半期(4-6月)の概況

1. 売上・損益:

- ・ 連結売上高は前年同期比▲3.1%減収の4,551億円。
- ・ 営業利益は前年同期比▲5.9%減益の524億円。売上高営業利益率は同▲0.4ポイント減の11.5%。
- ・ 四半期純利益は前年同期比+16.1%増益の372億円。

	FY2012/1Q	FY2013/1Q	前年同期比
連結売上高	4,699億円	4,551億円	▲3.1%
営業利益	557億円	524億円	▲5.9%
売上高営業利益率	11.9%	11.5%	▲0.4ポイント
純利益*	321億円	372億円	+16.1%

*米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する四半期純利益」

2. 各セグメントの状況:

■ 建設機械・車両

主にインドネシアの建設機械および鉱山機械、中南米の鉱山機械の需要減少を、日本・中近東等の一般建機、部品等の販売増で補ったものの、前年同期比減収減益。

■ 産業機械他

自動車業界向けを中心に工作機械の売上が堅調に推移したものの、大型プレス等板金鍛圧機械の販売が減少したことにより、前年同期比減収減益。

2013年度第1四半期(4-6月)の連結売上高と損益

・鉱山機械の需要減少を、日本・中近東等の一般建機、部品、自動車業界向け工作機械等の販売増で補ったものの、売上高は前年同期比▲3.1%減収の4,551億円、営業利益は同▲5.9%減益の524億円。

□:利益率

():外部顧客向け売上高

金額単位:億円

	FY2012/1Q 1ドル=80.6円 1ユーロ=104.6円 1元=12.8円	FY2013/1Q 1ドル=97.3円 1ユーロ=126.4円 1元=15.8円	前年同期比	
売上高	4,699	4,551	▲147	▲3.1%
- 建設機械・車両	(4,289) 4,297	(4,159) 4,166	(▲130) ▲131	(▲3.0%) ▲3.1%
- 産業機械他	(410) 430	(392) 403	(▲17) ▲27	(▲4.3%) ▲6.3%
- 消去	▲29	▲18	+10	-
セグメント利益	□11.8% 552	□11.5% 525	▲27	▲4.9%
- 建設機械・車両	□12.6% 542	□12.6% 526	▲15	▲2.9%
- 産業機械他	□5.5% 23	□2.0% 8	▲15	▲65.4%
- 消去または全社	▲13	▲8	+4	-
その他の営業収益(▲費用)	4	▲1	▲5	-
営業利益	□11.9% 557	□11.5% 524	▲33	▲5.9%
その他の収益(▲費用)	▲44	▲8	+36	-
税引前純利益	512	515	+3	+0.7%
純利益*1	321	372	+51	+16.1%

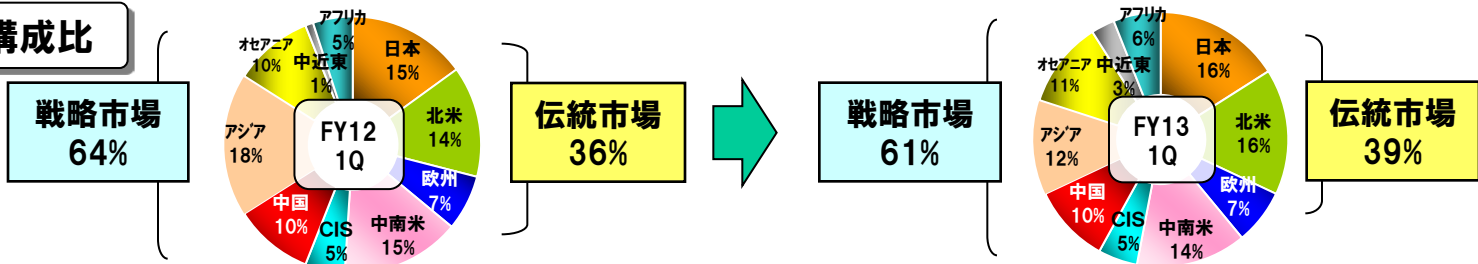
*1 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する四半期純利益」

<建設機械・車両> 2013年度第1四半期(4-6月)の地域別売上高(外部顧客向け)

- ・インドネシア・中南米等における鉱山機械の需要減少を、日本・中近東等の一般建機、部品の販売増等で補ったものの、外部顧客向け売上高は前年同期比▲3.0%減収の4,159億円。
- ・日本の売上が堅調に推移し、アジア、中南米、CISの売上が減少したことにより、伝統市場の比率が39%に増加。

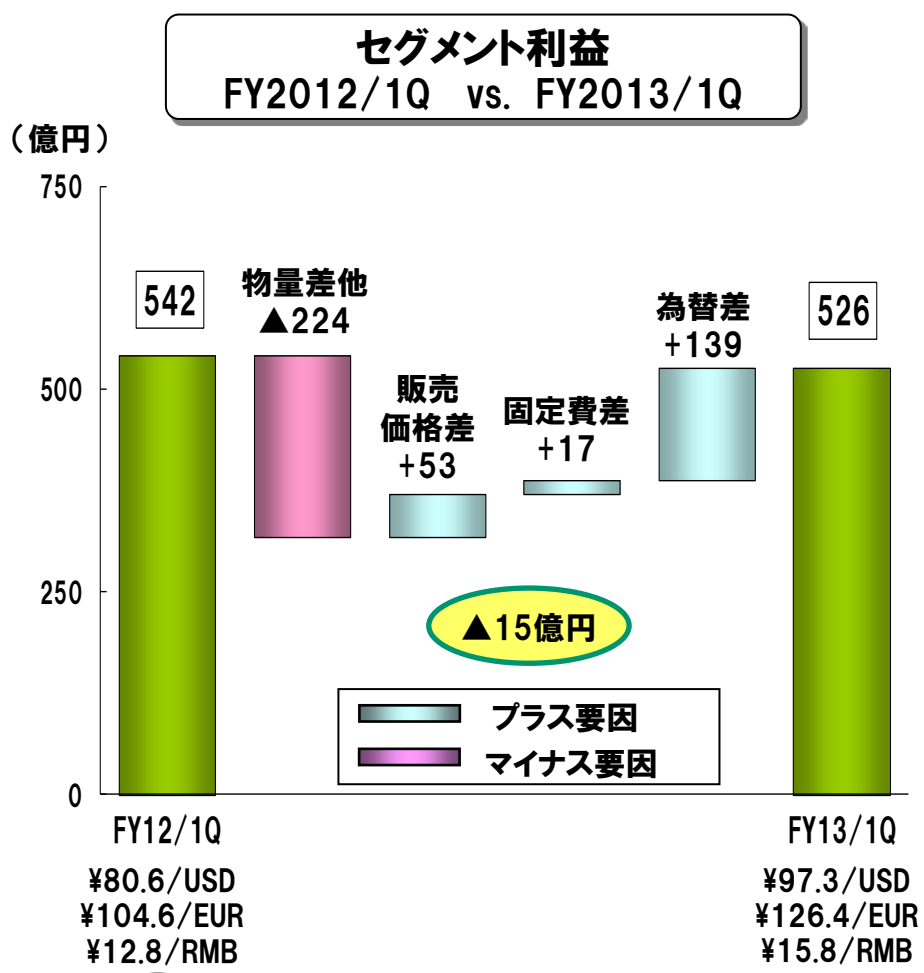
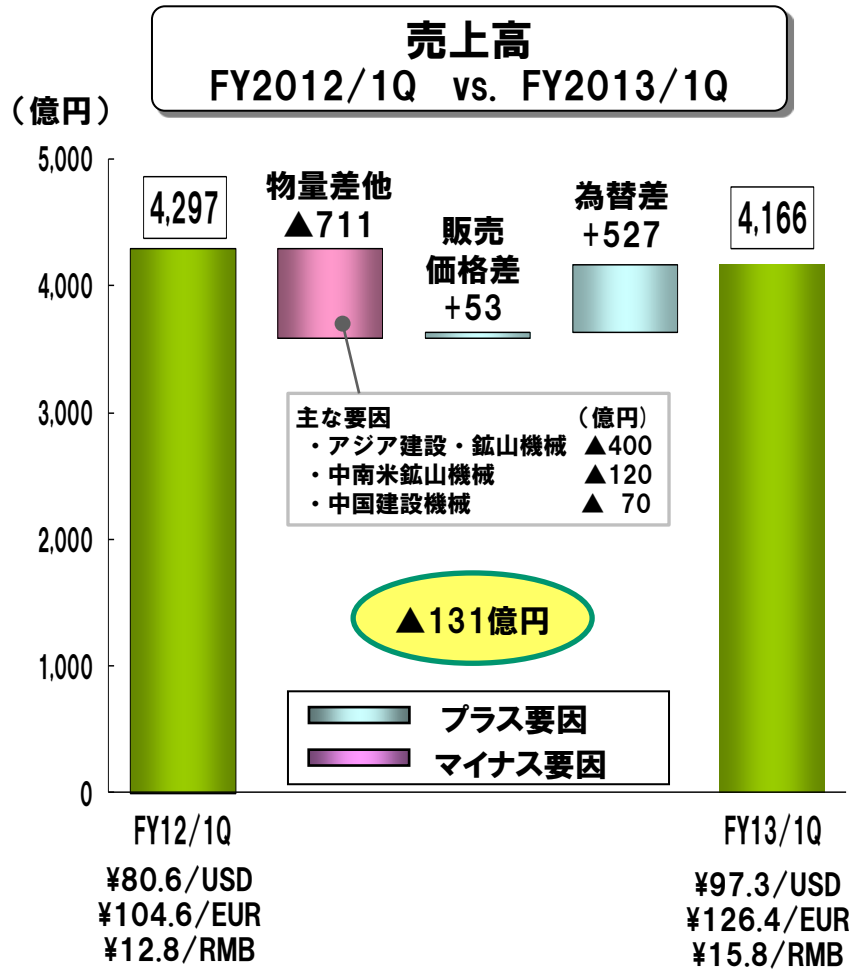
(金額単位:億円)		FY2012/1Q	FY2013/1Q	前年同期比	
伝統市場	日本	625	664	+39	+6.3%
	北米	619	656	+37	+6.0%
	欧州	279	304	+25	+9.2%
戦略市場	中南米	633	594	▲39	▲6.2%
	CIS	219	185	▲33	▲15.4%
	中国	407	414	+6	+1.7%
	アジア	785	479	▲305	▲38.9%
	オセアニア	443	473	+30	+6.9%
	中近東	52	136	+83	+159.7%
	アフリカ	224	249	+25	+11.3%
合計		4,289	4,159	▲130	▲3.0%
うち、鉱山機械		1,552	1,296	▲256	▲16.5%

地域別売上構成比



<建設機械・車両> 2013年度第1四半期(4-6月) 売上高・セグメント利益の増減要因

・鉱山機械の需要減少による物量減を、販売価格の向上により補ったものの、売上高は前年同期比▲131億円の減収。セグメント利益は同▲15億円の減益。
 ・売上高セグメント利益率は前年同期並の12.6%。

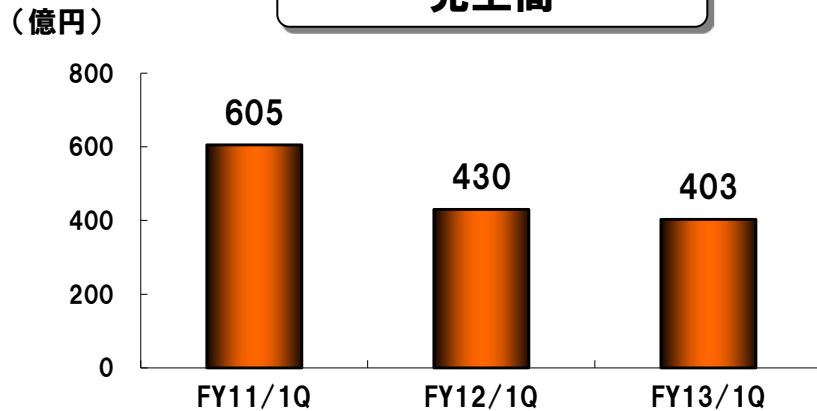


12.6%
 — 売上高セグメント利益率 —
 12.6%

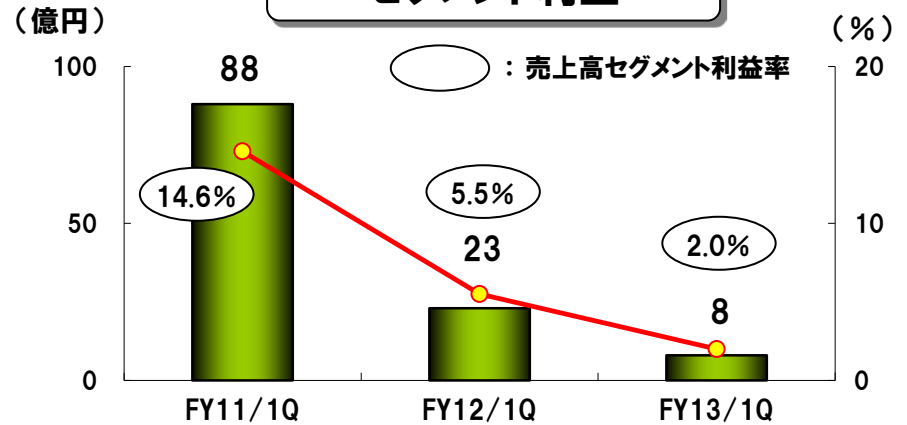
<産業機械他> 2013年度第1四半期(4-6月)の売上高とセグメント利益

・工作機械の売上は堅調に推移したものの、大型プレス等板金鍛圧機械の販売が減少したことにより、売上高は前年同期比▲6.3%減収の403億円、セグメント利益は前年同期比▲65.4%減益の8億円。

売上高



セグメント利益



売上高の内訳

金額単位: 億円

	FY12/1Q	FY13/1Q	増減
コマツ産機等 (板金鍛圧事業合計)	111	92	▲19
コマツNTC [うち、ワイヤーソー]	152 [20]	167 [12]	+15 [▲7]
その他 [うち、ギガフォトン] [うち、コマツハウス]	166 [54] [36]	143 [62] [29]	▲22 [+7] [▲7]
合計	430	403	▲27



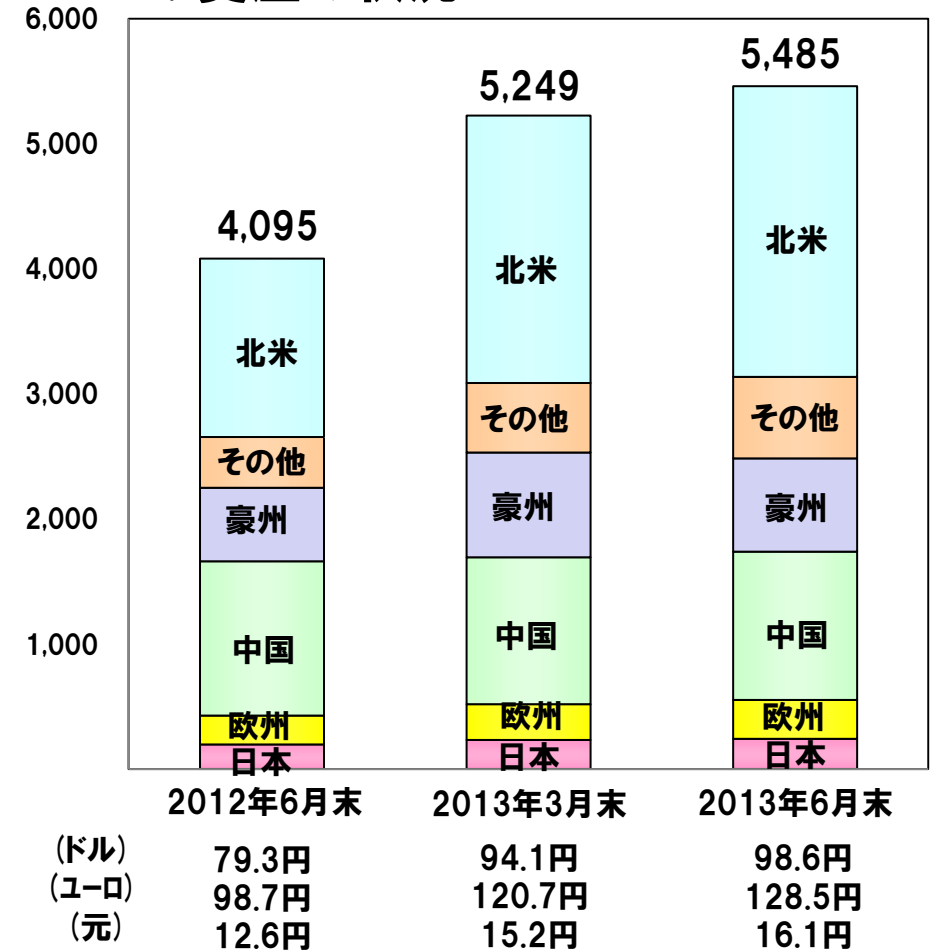
2013年5月にコマツ産機(株)が発売したファイバーレーザー加工機「KFL2051」

リテールファイナンスの状況

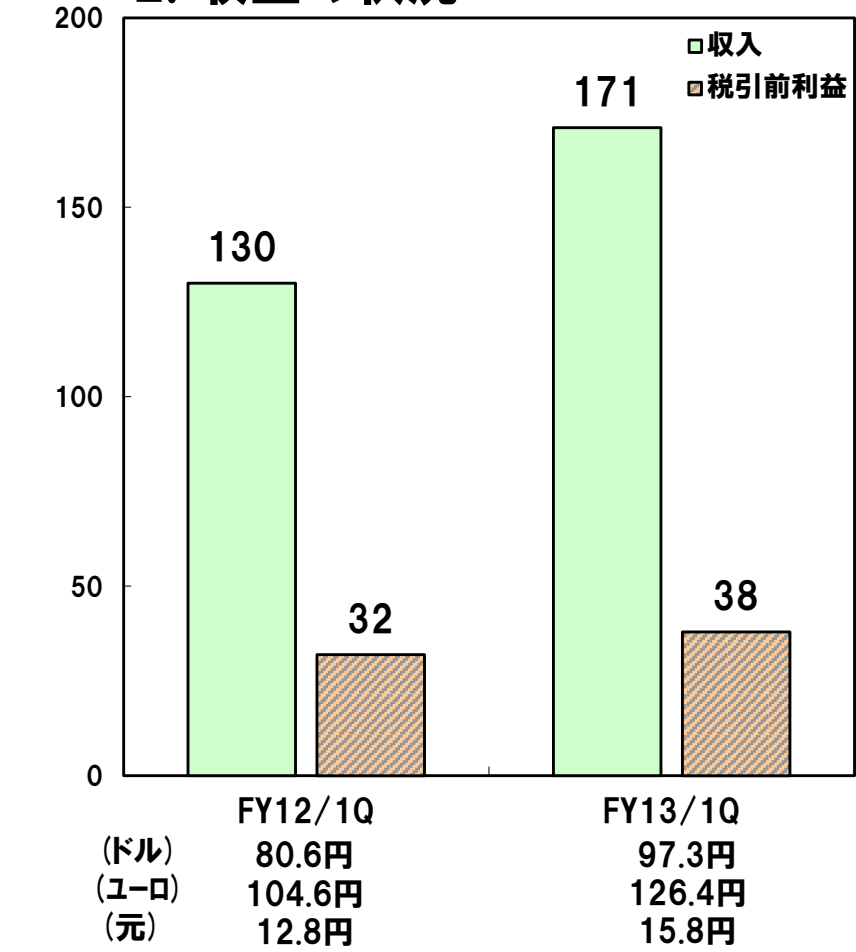
・資産は円安の影響に加え、北米および中南米における新規取扱の増加等により、2012年6月末より増加。

リテールファイナンス子会社の状況

1. 資産の状況



2. 収益の状況



連結貸借対照表

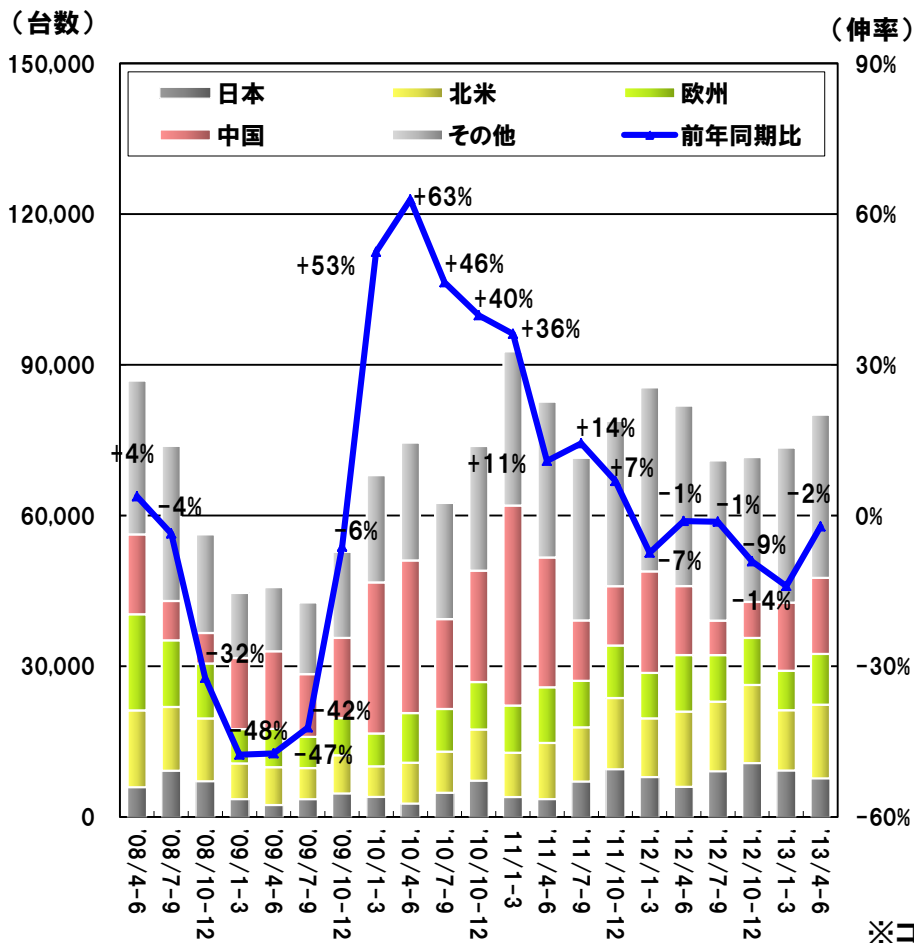
- ・ 総資産は、為替レートが円安となったこと等により前年度末比で+420億円増加。
- ・ 株主資本比率は同+1.0ポイント増の48.4%。ネットD/Eレシオは0.48と、前年度末より改善。

金額単位:億円 ○:ネットD/Eレシオ	2013年3月末 1ドル=94.1円 1ユーロ=120.7円 1元=15.2円	2013年6月末 1ドル=98.6円 1ユーロ=128.5円 1元=16.1円	増減
現金・預金(含む定期預金) [a]	938	937	▲0
受取手形・売掛金(含む長期売上債権) ＜除くリテールファイナンス会社＞	8,427 <4,143>	8,215 <3,875>	▲211 <▲267>
棚卸資産	6,336	6,722	+386
有形固定資産	5,852	6,022	+169
その他資産	3,624	3,700	+76
資産合計	25,178	25,599	+420
支払手形・買掛金	2,262	2,289	+26
借入金・社債 [b] ＜除くリテールファイナンス会社＞	6,797 <2,981>	6,935 <2,982>	+137 <0>
その他の負債	3,591	3,392	▲198
負債合計	12,651	12,616	▲34
(株主資本比率) 株主資本	(47.4%) 11,931	(48.4%) 12,395	(+1.0ポイント) +463
非支配持分	595	587	▲7
負債及び純資産合計	25,178	25,599	+420
ネットベースの借入金・社債 [b-a]	○0.49 5,859	○0.48 5,997	+138
ネットD/Eレシオ(リテールファイナンス会社を除いた場合)	○0.20	○0.19	

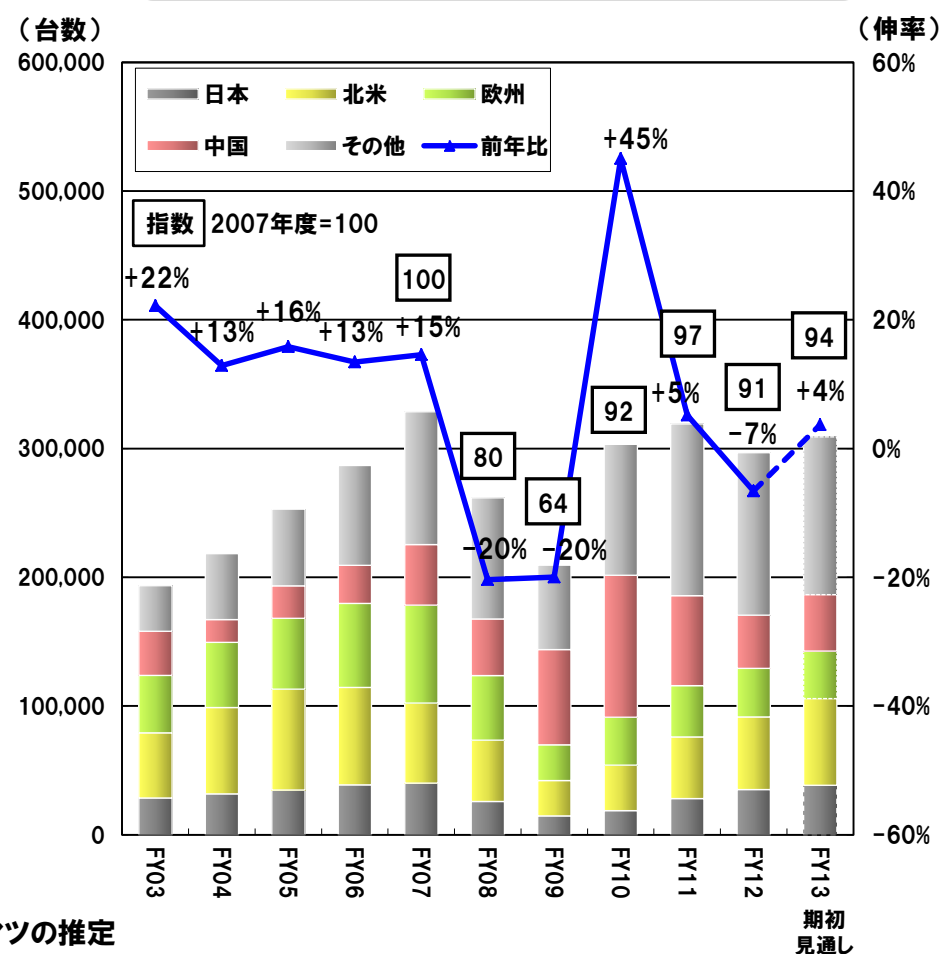
<建設・鉱山機械> 主要7建機需要推移と見通し

・第1四半期の主要7建機需要は、日本・中国で増加したものの、インドネシアを中心とする東南アジア、オセアニア等の減少により前年同期比▲2%。

四半期別需要推移(主要7建機)



年度別需要推移(主要7建機)



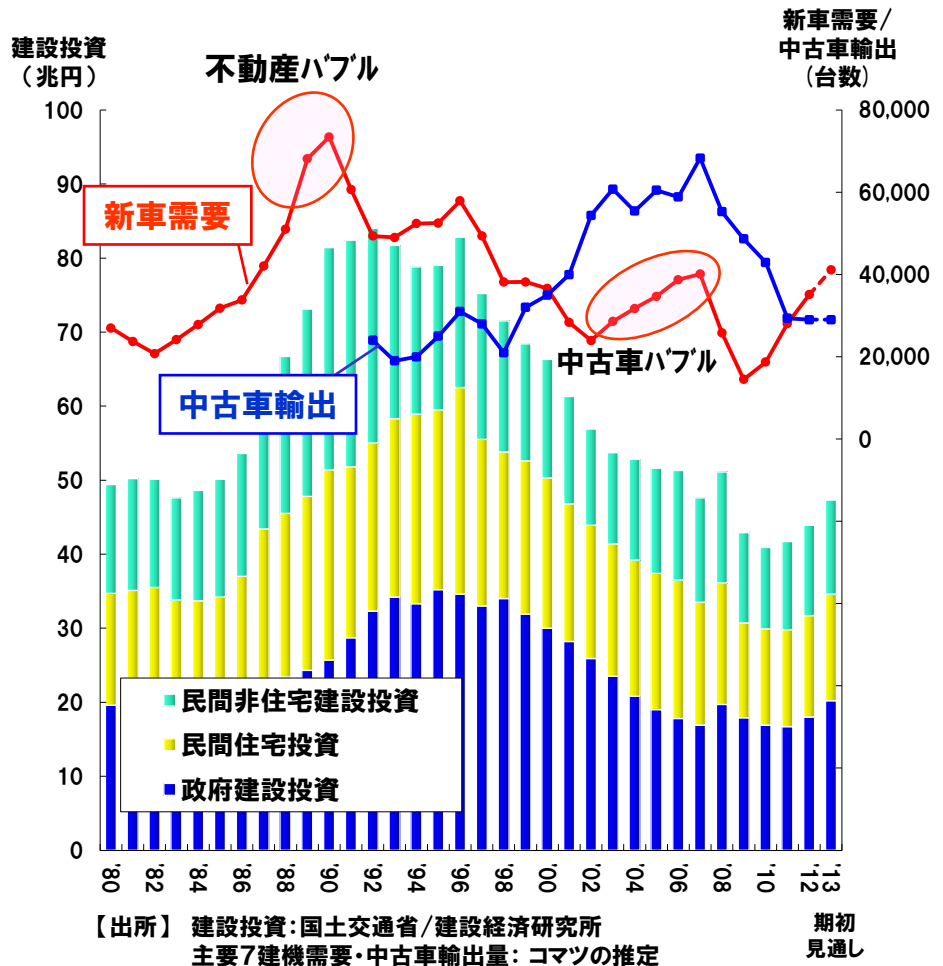
※コマツの推定

期初見通し

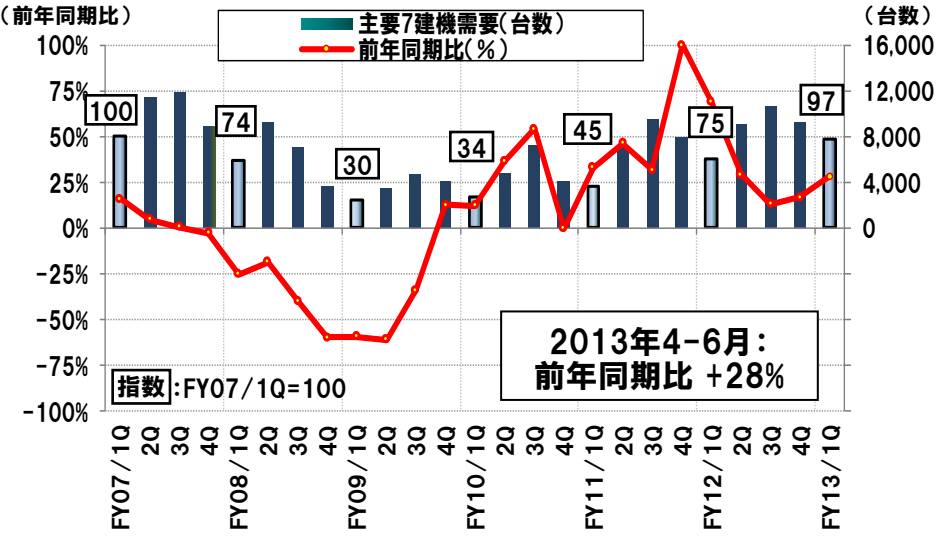
<建設・鉱山機械> 主要市場の需要推移①：日本市場

- 第1四半期の需要は、震災復興向けを中心に引き続き堅調に推移し、前年同期比+28%。
- 堅調なレンタル需要に対応し、レンタルフリートの増強を行う。

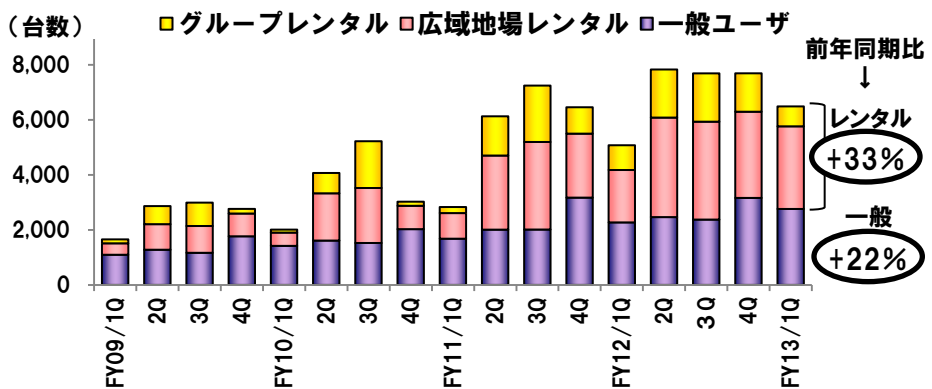
新車需要(主要7建機)と建設投資



主要7建機 需要推移



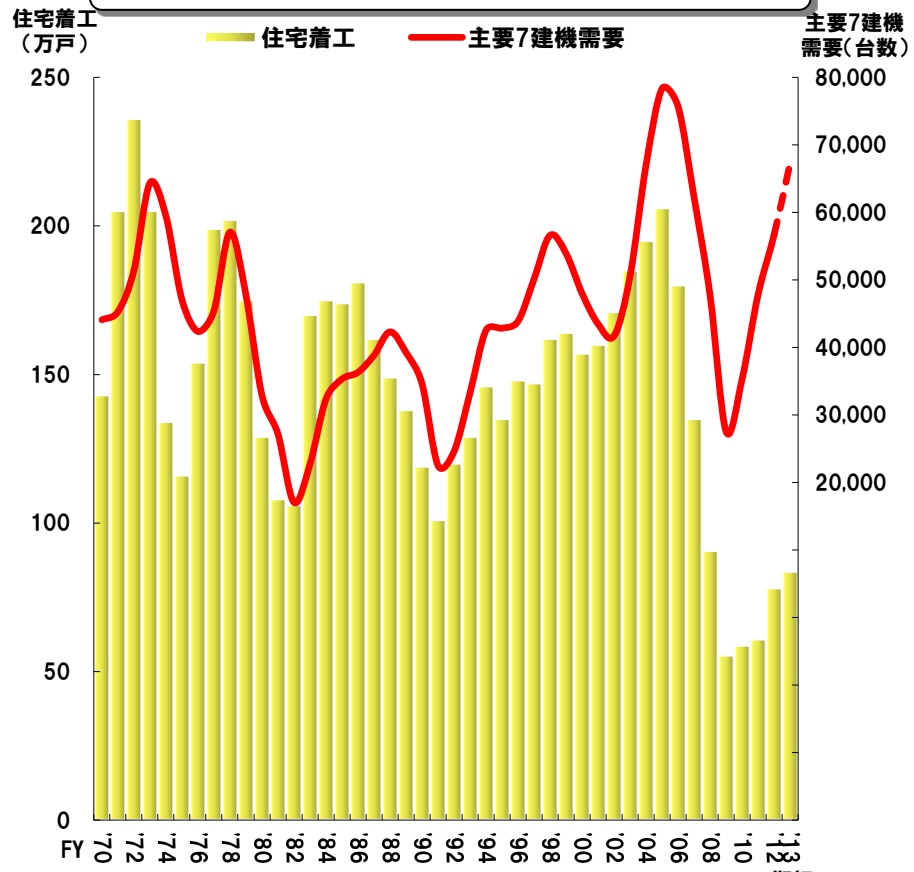
油圧ショベル 需要推移 (レンタル/一般向け)



<建設・鉱山機械> 主要市場の需要推移②: 北米市場

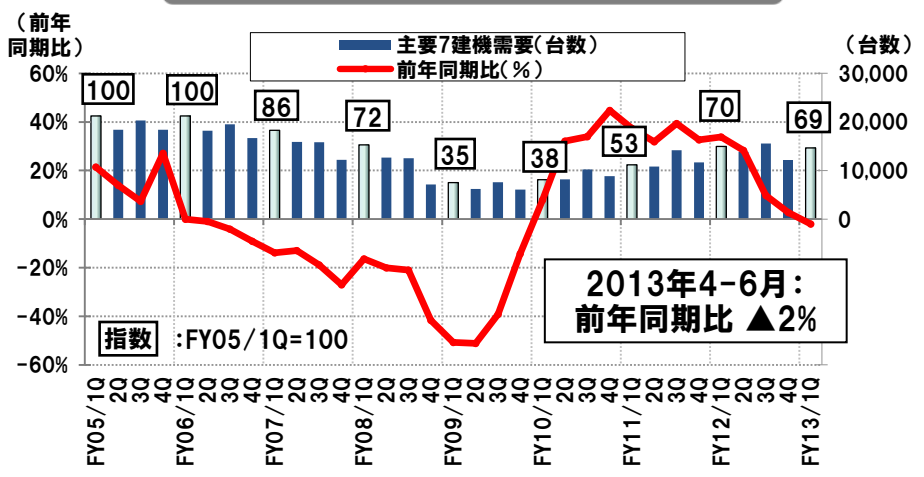
・第1四半期の需要は、住宅向け、エネルギー向けが引き続き伸長したものの、鉱山向け・レンタル向けの減少により前年同期比▲2%。
 ・住宅・非住宅向けの堅調な需要に対応して、既定方針どおり代理店レンタルの強化を行うとともに、6月に発売したICT建機の円滑な導入を図る。

主要7建機需要と米国住宅着工件数



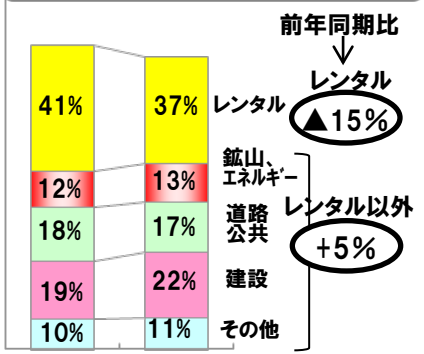
【出所】住宅着工[年間実績(暦年)]:米国商務省統計
 主要7建機需要:コマツの推定

主要7建機 需要推移



2013年4-6月:
 前年同期比 ▲2%

セグメント別 需要構成比(台数ベース)

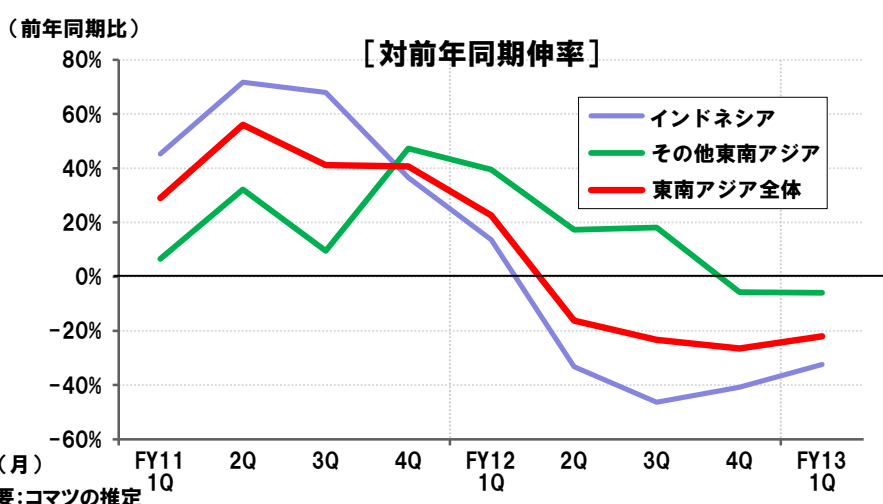
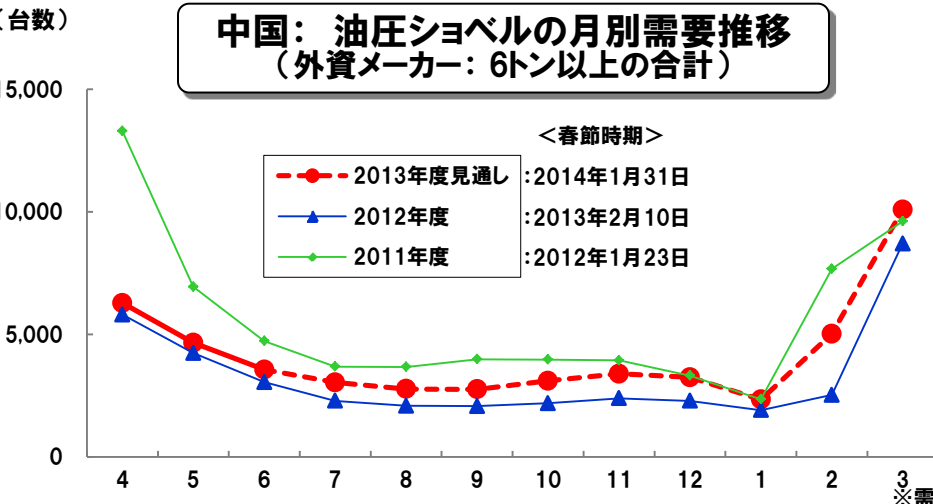
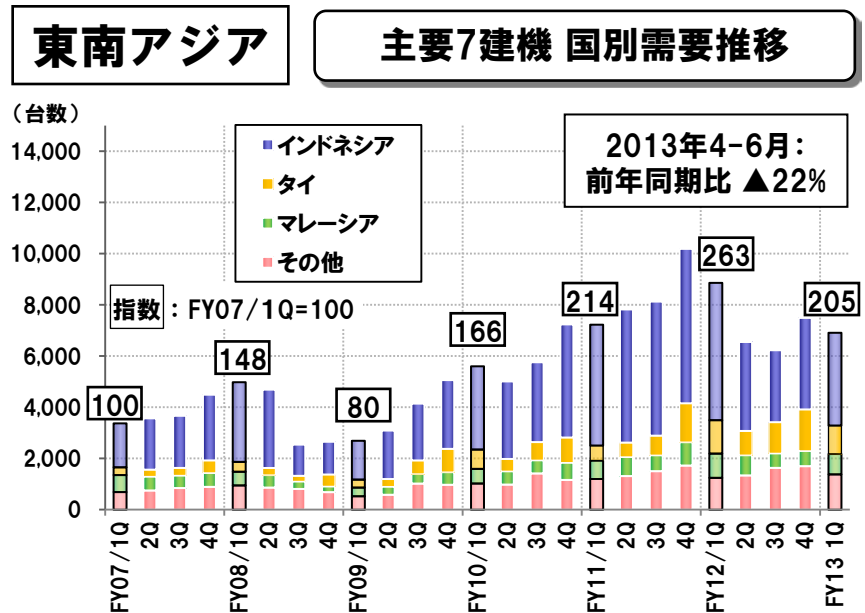
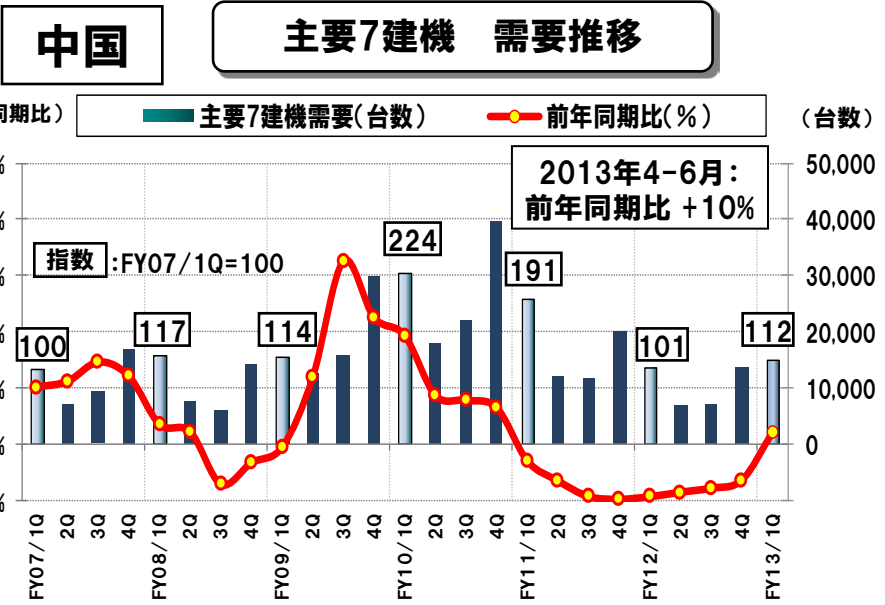


全自動ブレード制御機能を搭載した
 中型ICTブルドーザ「D61PXi」

FY12/1Q FY13/1Q

<建設・鉱山機械> 主要市場の需要推移③：戦略市場(中国・東南アジア)

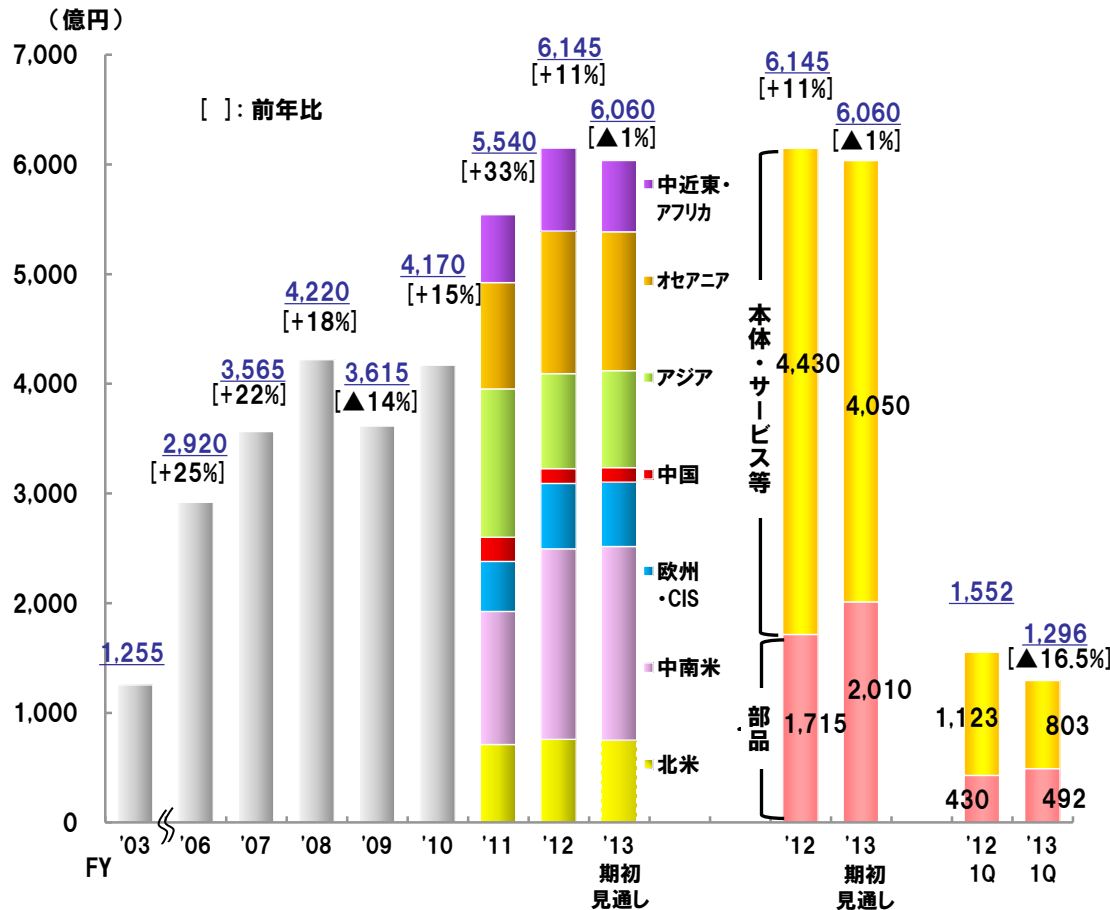
- 中国の第1四半期の需要は前年同期比+10%と、2年ぶりにプラスに転じた。
- 東南アジアの第1四半期の需要は、前年同期のインドネシアが高水準であったため▲22%。



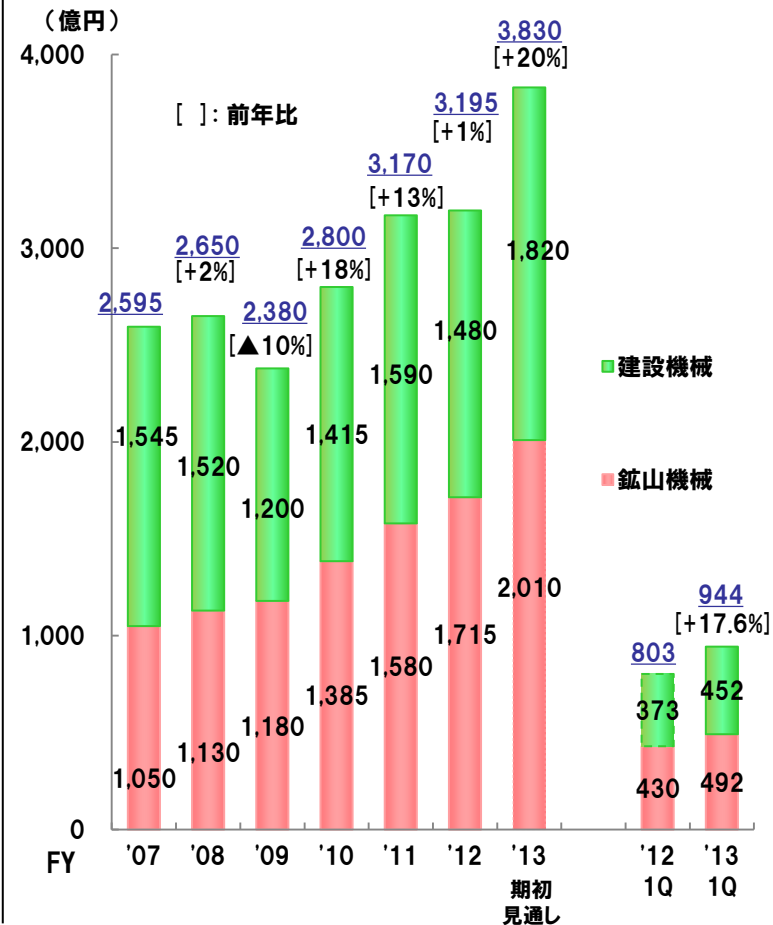
<建設・鉱山機械> 鉱山機械・部品の売上高

- ・ 資源価格下落に伴う鉱山ユーザーの設備投資削減等により、2013年度の鉱山機械の売上高は前年度より減少の見通し。
- ・ 配車台数の増加を受け、部品の売上高は前年度より増加の見通し。

鉱山機械 売上高 (部品・サービス含む)

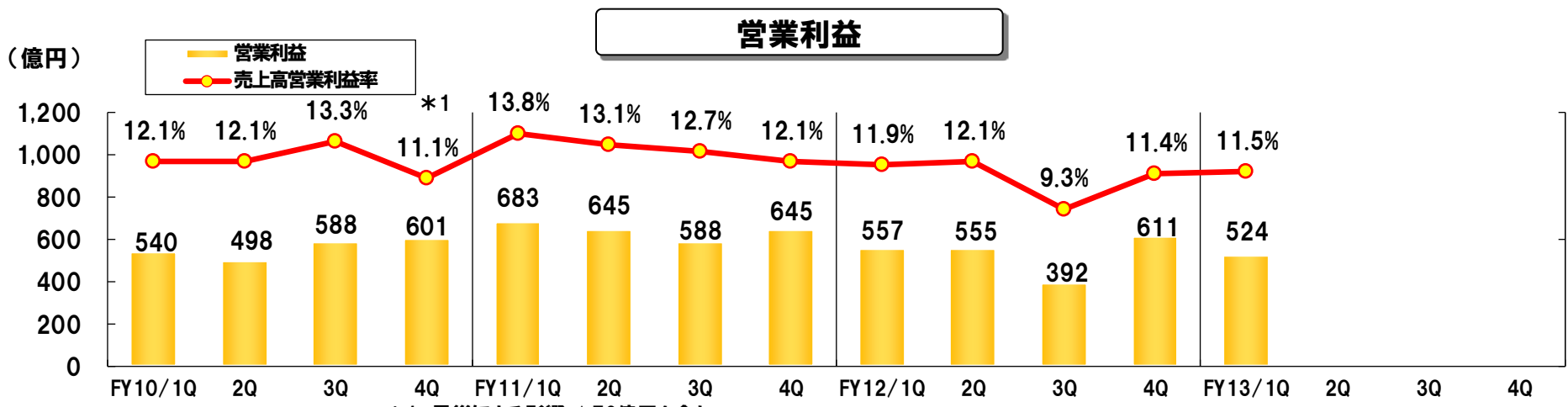
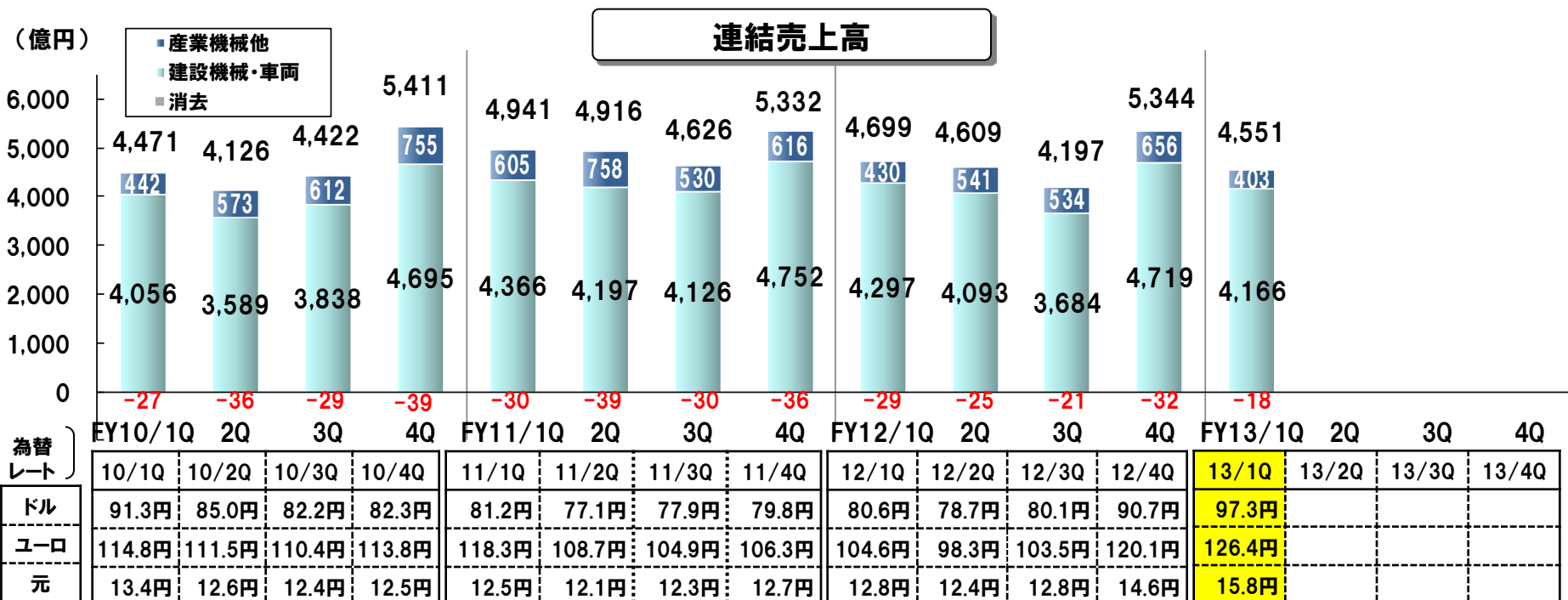


部品 売上高



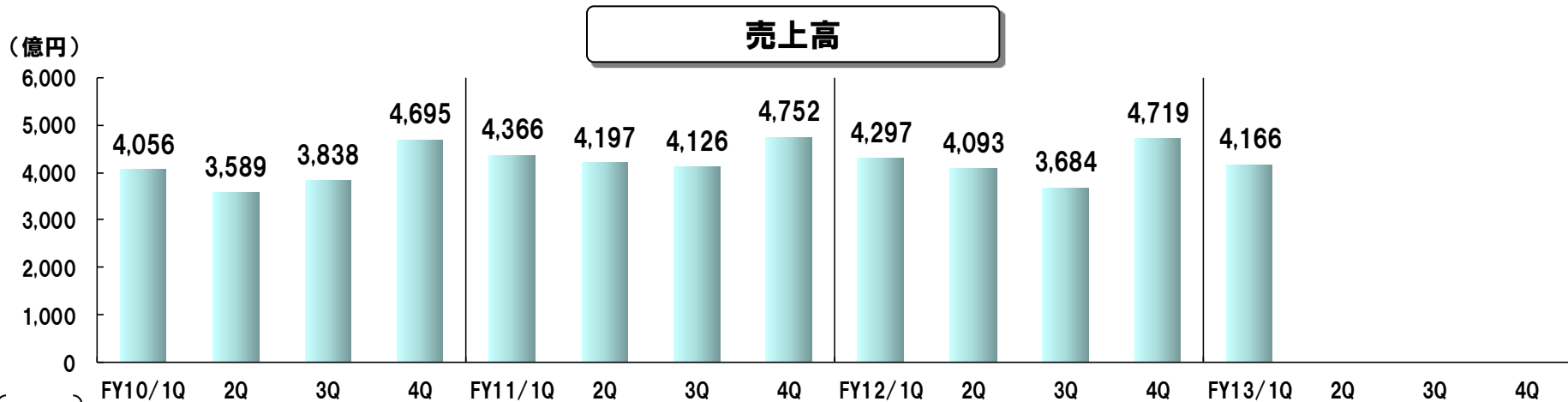
【参考資料】

四半期毎の連結売上高と営業利益の推移

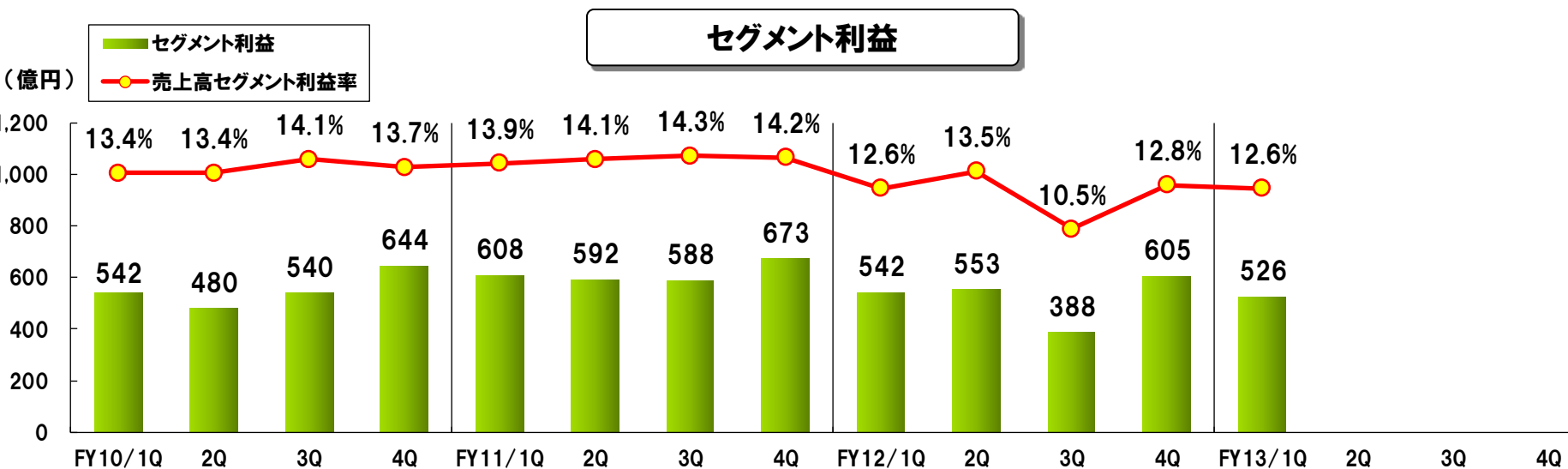


*1 震災による影響 ▲70億円を含む

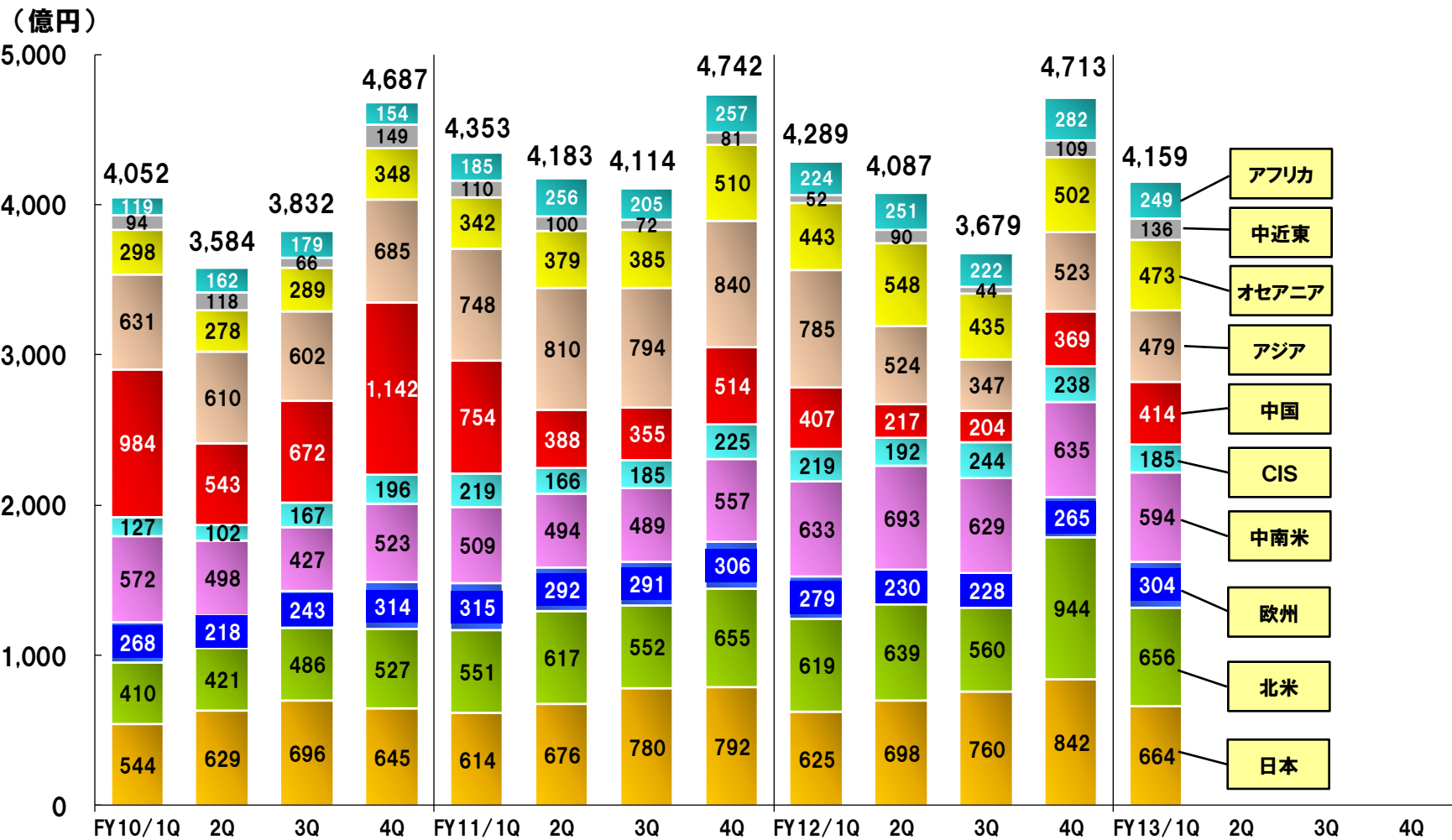
＜建設機械・車両＞四半期毎の売上高とセグメント利益の推移



為替レート	FY10				FY11				FY12				FY13			
	10/1Q	10/2Q	10/3Q	10/4Q	11/1Q	11/2Q	11/3Q	11/4Q	12/1Q	12/2Q	12/3Q	12/4Q	13/1Q	13/2Q	13/3Q	13/4Q
ドル	91.3円	85.0円	82.2円	82.3円	81.2円	77.1円	77.9円	79.8円	80.6円	78.7円	80.1円	90.7円	97.3円			
ユーロ	114.8円	111.5円	110.4円	113.8円	118.3円	108.7円	104.9円	106.3円	104.6円	98.3円	103.5円	120.1円	126.4円			
元	13.4円	12.6円	12.4円	12.5円	12.5円	12.1円	12.3円	12.7円	12.8円	12.4円	12.8円	14.6円	15.8円			

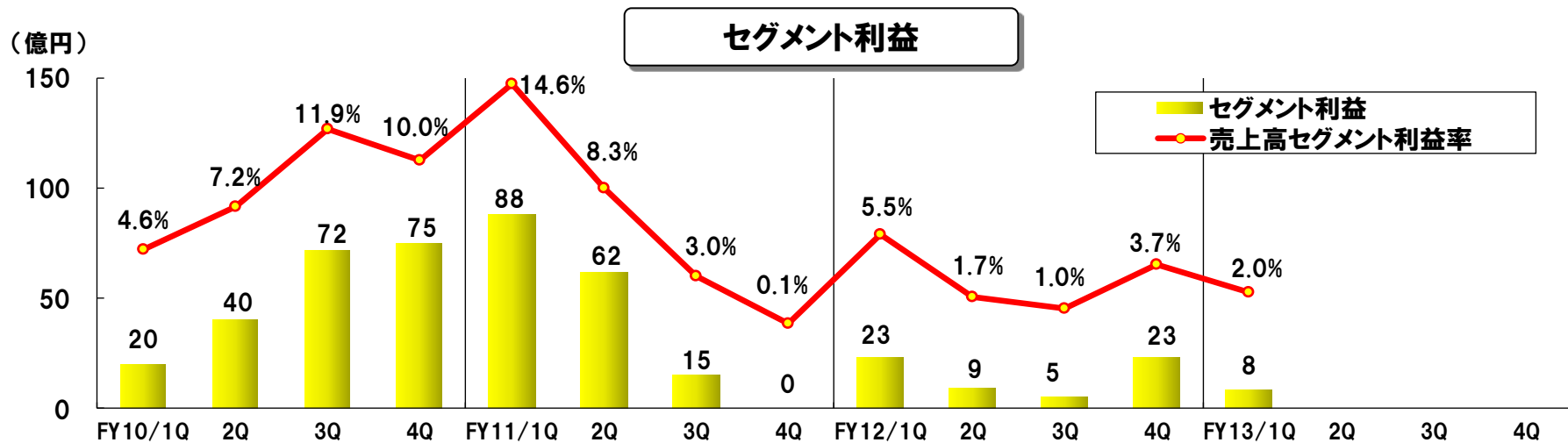
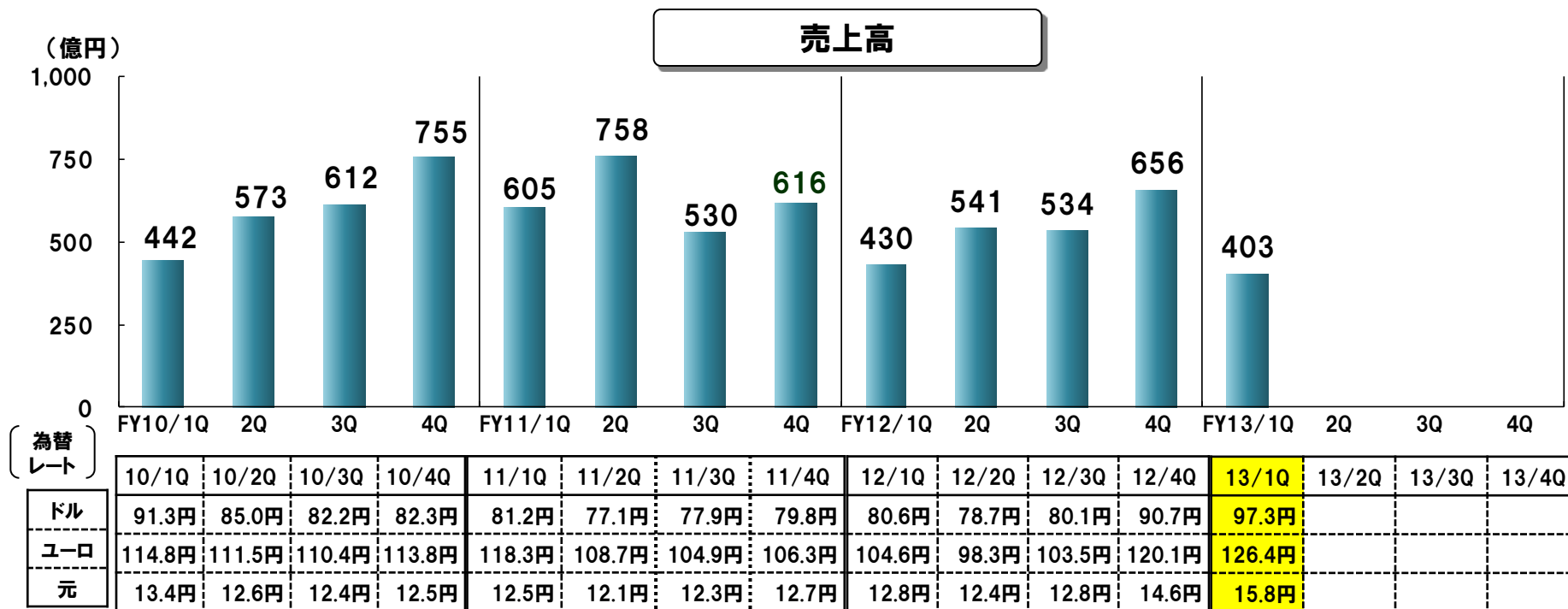


<建設機械・車両> 四半期毎の地域別売上高(外部顧客向け)



為替レート	10/1Q	10/2Q	10/3Q	10/4Q	11/1Q	11/2Q	11/3Q	11/4Q	12/1Q	12/2Q	12/3Q	12/4Q	13/1Q	13/2Q	13/3Q	13/4Q
ドル	91.3円	85.0円	82.2円	82.3円	81.2円	77.1円	77.9円	79.8円	80.6円	78.7円	80.1円	90.7円	97.3円			
ユーロ	114.8円	111.5円	110.4円	113.8円	118.3円	108.7円	104.9円	106.3円	104.6円	98.3円	103.5円	120.1円	126.4円			
元	13.4円	12.6円	12.4円	12.5円	12.5円	12.1円	12.3円	12.7円	12.8円	12.4円	12.8円	14.6円	15.8円			

<産業機械他> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移





世界初*の全自動ブレード制御機能を
搭載した中型ICTブルドーザー
「D61PXi-23」

*当社調べ。市販ベースの主要7機種(クローラー式油圧ショベル、ホイール式油圧ショベル、ホイールローダー、ブルドーザー、モーターグレーダー、リジッド式ダンプトラック、アーティキュレート式ダンプトラック)において。

【見通しに関する注記事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあります。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。